

**わたしたちの主権ある陶器師としての神は、
わたしたちを神の器(神の容器)とならせて、神を内容とさせる**
聖書：エレミヤ 18:1-10． イザヤ 64:8． ローマ 9:15-16, 19-23．
使徒 9:15． IIコリント 4:6-7

- I. わたしたちの主権ある陶器師としての神は、ご自身の陶器としてのわたしたちに対して完全な権利を持っています。わたしたちが神の主権のビジョンを見ることは極めて重要です——エレミヤ 18:1-10． イザヤ 64:8． ダニエル 4:3, 34-35． ローマ 9:19-23：
- A. 主権は、神の無限の権威、力、地位を指しています——啓 4:11． 5:13：
1. 神は主権ある方として、あらゆるものの上に、あらゆるものの背後に、あらゆるものの中にいます——列王上 22:19。
 2. 神には、ご自身の心の願い、またご自身の永遠のエコノミーにしたがって、ご自身が願っていることを遂行する完全な能力があります——ダニエル 4:34-35． エペソ 1:4-5, 9-11。
- B. ローマ第9章19節から23節は、神の主権について言っています：
1. 「『みこころを拒むことが、だれにできましようか？』。しかし人よ、あなたは何者なので、神に口答えするのですか？ 形造られたものが、それを形造った者に向かって、『なぜあなたは、わたしをこのように造ったのか？』と言えるのでしょうか？」——ローマ 9:19 後半-20：
 - a. わたしたちは、自分が何者であるのかを認識する必要があります。わたしたちは神の被造物であり、神はわたしたちの創造主です——イザヤ 42:5。
 - b. わたしたちは神の被造物として、ご自身の定められた御旨に逆らうべきではなく、また創造主である彼に口答えするべきではありません——ローマ 9:20。
 2. 「陶器師は土くれに対して、同じかたまりから一つを尊い器に、もう一つを卑しい器に、造る権威を持っていないのですか？」——ローマ 9:21：
 - a. 神はわたしたちの陶器師であり、わたしたちは神の御手の中にある土くれ(粘土)です。わたしたちの陶器師である神は主権者です——エレミヤ 18:1-6． イザヤ 64:8。
 - b. 神はわたしたちの陶器師として、わたしたちに対して完全な権利を持っています。わたしたちに関して、彼には、ご自身が願っていることを何であれ行なう権利があります。もし神が願うなら、一つを尊い器に、もう一つを卑しい器に造ることができます——エレミヤ 18:6。

イザヤ 29:16. 64:8. ローマ 9:21。

- C. 神の主権は、彼の選びの基礎です。彼の選びは、彼の主権にかかっています——ローマ 9:11, 18. 11:5, 28。
- II. わたしたちの陶器師としての神は主権をもって、わたしたちを創造し、神の器(神の容器)とならせて、ご自身があらかじめ定めていたことにしたがって、神ご自身を内容とさせました——Ⅱコリント 4:6-7. エペソ 4:6. 3:19 後半. ピリピ 2:13. ヘブル 13:20-21. I テモテ 3:16. II テモテ 2:20-21. エペソ 1:5, 11:
- A. 人を創造することにおける神の目的は、人を神の器、土くれの容器とし、人が命であるキリストを内容として、彼で満たされるようにして、神の偉大な団体の器としてのキリストのからだを建造し、ご自身の表現を得させることでした——創 2:7. 使徒 9:15. ローマ 9:21, 23. IIコリント 4:7。
- B. 聖書全体の基本的な教えは、以下のとおりです：神は内容そのものであり、わたしたちはその内容を受け入れるために造られた容器です。わたしたちは神を内容とし、神で満たされなければなりません。それは、わたしたちが尊いことに用いられる器となり、聖別され、主人に役立ち、あらゆる良いわざに間に合う者となることのできるためです——Ⅱテモテ 2:20-21。
- C. もしわたしたちが神を内容とせず、わたしたちの内容としての神を認識しないなら、無意味に矛盾しています[中文訳：神がわたしたちを器として造った目的に相反し、その意義を失ってしまっています] ——伝 1:2-3, 14。
- D. パウロの十四の書簡はすべて、以下の言葉に要約することができます——「開いた器」:
1. 神がどれほどご自身をわたしたちの中へと分与することができるかは、わたしたちがどれほど開くかにかかっています。神は、わたしたちがご自身だけを愛し、ご自身に対して開き続けることを願っています——列王下 4:1-7. マタイ 5:3. ヨハネ 1:16. イザヤ 57:15. 66:1-2。
 2. 衰退は自己満足から始まります。進歩は飢え渴きから始まります——申 4:25. ルカ 1:53. ピリピ 1:25. 啓 3:16-18。
- III. 神はわたしたちの陶器師として、ご自身の主権において權威を持っており、ご自身が選び召した者たちを、尊い栄光のあわれみの器とします——ローマ 9:11, 18, 21-24:
- A. わたしたちは神の主権あるあわれみにしたがって、神によって選ばれました。神のあわれみは、神の属性のうちで、最も遠くに到達するものであつ

て、わたしたちをあわれな地位から、ご自身の恵みと愛にふさわしい状態の中へと救い出します——エペソ 2:1-4. ヘブル 4:16. マタイ 5:7. 7:1. 9:13:

1. わたしたちは自分の天然の状態によれば、神から遠く離れており、神の恵みに全くふさわしくありませんでした。わたしたちは神のあわれみを受けるのにふさわしいだけでした——エペソ 2:4。
 2. 人の不従順が神のあわれみに機会を得させ、神のあわれみは人を救いにもたらします——ローマ 11:32。
 3. わたしたちは創造されて、あわれみの器となり、あわれみの神としてのキリストを内容としました——ローマ 9:11-13, 16, 20-21, 23. 哀 3:21-24. ルカ 1:78-79。
 4. わたしたちは神のあわれみのゆえに、他の人が福音に応答しなかったときに、この福音に応答し、他の人が命としてのキリストについての言葉を受け入れるのを拒絶したときに、この言葉を受け入れ、他の人が主の回復の道から後ずさりしたときに、この道を取りました——詩歌 234 番 3 節。
- B. 『わたしは自分があわれもうとする者をあわれみ』、……ですから、それは人が決意することによるのではなく、走ることによるのでもなく、神があわれみを示されることによるのです——ローマ 9:15 前半, 16:
1. わたしたちの観念は、得ようと決意する者がそれを得て、また得ようと走る者が追い求めるものを得るのです——ローマ 9:16:
 - a. もしこのようであったのなら、神の選びは、わたしたちの努力と労苦によるものになっていたことでしょう。
 - b. 反対に、神の選びは、あわれみを示される神によります。わたしたちは決意する必要も、走る必要もありません。なぜなら、神がわたしたちをあわれんでくださるからです。
 - c. もしわたしたちが神のあわれみを認識するなら、自分の努力に信頼することも、自分の失敗によって失望することもないでしょう。わたしたちのあわれな状態に対する望みは、神のあわれみの中にあります——エペソ 2:4。
 2. もしわたしたちが神の新約エコノミーにおいて神に仕えたいなら、この事が完全に、神の主権あるあわれみの事柄であることを認識する必要があります——ローマ 9:15-16. ヘブル 4:16:
 - a. もしわたしたちが神の主権を認識するなら、神のあわれみのゆえに神に感謝し、わたしたちが神の主権あるあわれみの下にいることを認識

します——ローマ 9:15。

- b. 「主権あるあわれみ」という表現が意味するのは、神のあわれみが完全に、神の主権の事柄であるということです。あわれみの器であることは、わたしたちの選択の結果ではありません。その起源は神の主権です——ローマ 9:18。
 - c. わたしたちに対する神のあわれみを説明するのにわたしたちが言うことができる唯一の事は、神が彼の主権の中でわたしたちを選び、あわれみ深くあったということです——ローマ 9:15-16, 23。
3. 神の主権あるあわれみの中で、わたしたちの心は神に傾けられています。わたしたちに対する彼のあわれみのゆえに、わたしたちは日ごとに彼を追い求めます——エレミヤ 29:12-13. 申 4:29. イザヤ 55:6. 詩 27:8. 105:4. 119:2. ヘブル 11:6。
 4. わたしたちは、自分たちにかかわるあらゆるものが神のあわれみの事柄であるのを見れば見るほど、ますます主の御前でわたしたちの責任を担うようになります。しかしながら、わたしたちが進んで責任を担うことでさえ、神のあわれみによります。
 5. 神はご自身の回復に関して、ご自分があわれもうとする者をあわれみます。
- C. ローマ第9章は、あらゆるものが神のあわれみにかかっているという原則を啓示しています——ローマ 9:15-16：
1. 使徒パウロは、この原則をイスラエル人に適用して、彼らに起こったあらゆる事が神のあわれみによったことをわたしたちに示しています——ローマ 9:16, 23。
 2. わたしたちが神のあわれみを見て、神のあわれみに明確に触れるときが、少なくとも一度はなければなりません——エペソ 2:4. マタイ 9:13：
 - a. この事柄に関して、わたしたちの目は少なくとも一度は、開かれる必要があります。あらゆるものが神のあわれみにかかっていることをわたしたちが見るときが、少なくとも一度はなければなりません。
 - b. わたしたちは、一度でこの事すべてを見ようと、ある過程を経過してそれを認識しようと、この事柄に触れた瞬間、感覚に触れるのではなく、事実に触れます。この事実とは、あらゆるものが神のあわれみにかかっているということです。
- D. 「ですから、わたしたちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか」——ヘブル 4:16, 参照, 15 節. ルカ 15:20-24。

- E. 父なる神はご自身の主権において、わたしたちをあわれみました。ですから、わたしたちは、父なる神の主権あるあわれみのゆえに、彼を賛美し、礼拝しなければなりません：
1. 「わたしは今、あなたのあわれみが永遠に古くならず、常に新しいことを享受します。毎朝わたしに臨み、朝露のように潤いを与えます。何と甘いことでしょうか、何と甘いことでしょうか、心を尽くしてあなたのあわれみを賛美します。全心であなたのあわれみを賛美します」——詩歌 22 番 5 節(全訳)。
 2. 「父よ、あなたのあわれみとあなたの恵み、慈愛を、わたしはすでに味わいました。あなたのこのあわれみは、あなたの臨在と御顔をもたらしませす。あなたのあわれみのゆえに、わたしは今あなたにひれ伏して礼拝し、あなたのあわれみを賛美し、世々にわたって歌いほめたたえます」——詩歌 23 番 3 節(全訳)。
- F. わたしたちが創造されたのは、尊いあわれみの器となって、尊い神としてのキリストを内容とするためです(Ⅱテモテ 2:20-21. ローマ 9:21)。そうして、わたしたちは神と人とを尊びます(士 9:9)：
1. 尊い器となることは、わたしたちの選択の結果ではありません。その起源は、神の主権です——ローマ 9:21。
 2. 信者たちは、再生を通して尊い器となり、キリストを彼らの宝として持っています——Ⅱコリント 4:6-7。
 3. 信者たちは、自分自身を清めることを通して、卑しい器から尊い器となります——Ⅱテモテ 2:20-21。
 4. 尊い器は、その霊によって生き、歩くことによって、神を尊ぶ者たちであり(ガラテヤ 5:16, 25)、また霊を人に供給することによって人を尊ぶ者たちです(Ⅱコリント 3:6, 8)。
- G. わたしたちが創造されたのは、栄光のあわれみの器となって、栄光の神としてのキリストを内容とするためです：
1. 栄光は、表現され、現された神ご自身です——エレミヤ 2:11. 使徒 7:2. エペソ 1:17. Ⅰコリント 2:8. Ⅰペテロ 4:14. コロサイ 2:9. 詩 24:7-10。
 2. 主は御父にこう告げることができました、「わたしは、あなたがわたしに行なわせようとして与えられたわざを成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました」(ヨハネ 17:4)。この事が意味しているのは、主が地上で生きていた間、御父を現し、表現したということです。

3. キリストの神性の栄光が解き放たれたことは(ルカ 12:49-50)、御父によって、神聖な栄光をもって、キリストの死を通してキリストの復活の中で(使徒 3:13)、キリストの栄光が現されたことでした(ヨハネ 12:23-24)。最後のアダムとしてのキリストは、ご自身の栄光が現されることの中で、ご自身の神聖な分与のために命を与える霊と成りました(ヨハネ 7:39. ルカ 24:26, 46. Iコリント 15:45 後半. IIコリント 3:6)。
4. わたしたちは、尊い栄光のあわれみの器として、栄光化(神の完全な救いの最終段階)を通して、栄光へと神によって用意されつつあります——ローマ 8:21, 23, 29-30. ペリピ 3:21。
5. 神はご自身の主権ある権威にしたがって、ご自身の栄光のためにわたしたちを創造し、形づくり、さらには造りました——イザヤ 43:7. ローマ 9:23:
 - a. わたしたちは神の主権によってあらかじめ定められて、神の容器となり、神に栄光の表現と現れを得させます。
 - b. この事は、神に対するわたしたちの有用性の最高点、すなわち、神の主権にしたがった神の選びの目標です——ローマ 9:11, 18。
 - c. 神の栄光が現されることは、わたしたちの奉仕の目的です——ローマ 7:6. 11:36。
 - d. わたしたちが神にささげることができる最高の奉仕は、神の栄光のために、神を表現することです——Iコリント 6:20. 10:31. ローマ 6:4。
 - e. 神の栄光は、召会の中へと造り込まれて、神は召会の中で表現されません。このゆえに、神に、召会の中で、栄光があるようになります。すなわち、神の栄光は召会の中で現されます——エペソ 3:16, 20-21。
6. わたしたちはこの宝を、すなわち、栄光の神としてのキリストを、土の器であるわたしたちの内側に住まわせています(IIコリント 4:7)。わたしたちに内住している「この宝」(IIコリント 4:7)は、「イエス・キリストの御顔」(IIコリント 4:6)、キリストの臨在、「キリストの御前(原文は御顔)」(IIコリント 2:10)です。
7. わたしたちは心を主に向けるとき、霊の中でキリストの臨在としての主なる霊を見つめつつあります。そしてわたしたちは「栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです」——IIコリント 3:16-18. 参照、IIテモテ 4:22。
8. 主の栄光を見つめることは、わたしたち自身が主を見ることです。主の栄光を反映することは、他の人がわたしたちを通して主を見ることができるようになることです——イザヤ 60:1, 5。